

本日の講義内容

- ●整列(3)
 - マージソートの原理
 - 配列によるマージソート
 - 連結リストによるマージソート
 - 🧿 外部整列(概要)

1

2

6

教科書 第15章 (pp.332~355)

マージソート

マージソート(Merge Sort)

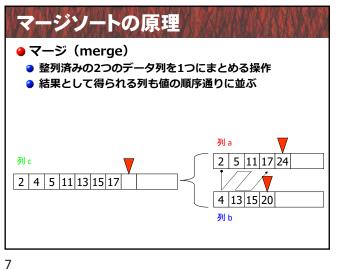
- 計算量 O (n log n) の高速な整列アルゴリズム
- 定数係数が大きいのでクイックソートには負ける
- ●特徴は要素をシーケンシャルにアクセスすること
- ●連結リストや外部記憶上のデータの整列に利用

3 4

マージソートの原理

- ●マージ (merge)
 - 整列済みの2つのデータ列を1つにまとめる操作
 - 結果として得られる列も値の順序通りに並ぶ

```
| デ細は教科書 p.333 List 15.1 | 入力:マージ対象となる2つの列 a, 列 b | 出力:列 a, 列 b の要素をマージして得られた列 c | static void merge() | {
| 列 c を空にしておく | while (列 a が空でない && 列 b が空でない) {
| if (列 a の先頭の要素 <= 列 b の先頭の要素 ) {
| 列 a の先頭の要素を取り除いて、列 c の最後尾に追加する | else {
| 列 b の先頭の要素を取り除いて、列 c の最後尾に追加する | }
| if (列 a が空である) {
| 別 b に残っている要素を、そのままの順番で列 c の最後尾に追加する | else {
| 列 a に残っている要素を、そのままの順番で列 c の最後尾に追加する | else {
| 列 a に残っている要素を、そのままの順番で列 c の最後尾に追加する | }
| }
```



マージソート(1)

- 🥚 手順
 - 1. データ列を真ん中で2つの部分列 a と b に分割
 - 2. 部分列 a と b を, それぞれ (再帰的に) 整列
 - 3. 整列済みになった部分列 a と b をマージ
- ステップ2での整列に再帰呼び出しを利用
- 再帰呼び出し毎に部分列の長さは半分に
- 部分列の長さが1なら再帰終了(自明なケース)
- 分割統治法

8

10

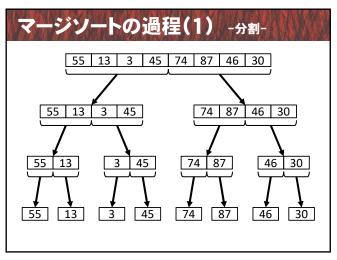
12

```
マージソート(2)
                                                     詳細は教科書 p.335 List 15.2
入力:列 a
出力:列 a を整列したもの
static void mergeSort()
  if (列 a はただ1つの要素からなる) { // 再帰の終了条件 return ; // 当然ながら整列済みなので何もせずに戻る }
  列 a を2つの列 x, y に分割する
mergeSort() を再帰的に呼び出して,列 x を整列する
mergeSort() を再帰的に呼び出して,列 y を整列する
列 x, y をマージして,その結果を列 a に戻す
```

再帰処理の違い

- クイックソート
- 仕事をする(分割処理)
- 分割した部分に対して, 再帰的に処理を行う
- マージソート
 - 分割した部分に対して, 再帰的に処理を行う
 - 仕事をする(マージ処理)

9



マージソートの過程(2) -マージ-74 87 55 13 3 45 46 30 13 55 3 45 74 87 30 46 3 13 45 55 30 46 74 87 3 | 13 | 30 | 45 | 46 | 55 | 74 | 87

マージソートの実装(1)

- 配列によるマージソート
- ◆ 教科書 List 15.3 は少しトリッキー
 - マージの処理をマージソートのメソッド内部で実装
 - 作業配列へのコピーがトリッキー
 - 詳しくは pp.338~342の説明を読むこと
- **以降では素直な実装例を紹介**

```
マージソートの実装(1)
                                                   マージの概略
                                                    List 15.1を素直に実装
 入力:int[] arravA, int[] arravB
出力:int[] arrayC
                                                    練習課題12-1のヒント
 static void merge(int[] arrayA, int[] arrayB, int[] arrayC) {
  int aldx = 0, bldx = 0, cldx = 0;
while (aldx < arrayA.length && bldx < arrayB.length) {
   if (arrayA[aldx] < arrayB[bldx]) {
     arrayC[cldx++] = arrayA[aldx++];
                                                  小さいほうからマージ
     } else {
       arrayC[cIdx++] = arrayB[bIdx++] ;
  while (aIdx < arrayA.length) {
   arrayC[cIdx++] = arrayA[aIdx++] ;</pre>
                                                   残りの部分を書き出す
  while (bIdx < arrayB.length) {
   arrayC[cIdx++] = arrayB[bIdx++] ;</pre>
                                                   残りの部分を書き出す
                    if 文は不要. どちらかの while は無視される
```

13 14

マージソートの実装(3) mergeの実装

- ●引数

18

- int[] dataArray:整列対象のデータ
- int[] workSpace:作業配列(事前に領域確保)
- int lowBound:下半分の配列の開始位置
- int midBound:上半分の配列の開始位置 (=下半分の配列の上限位置+1)
- int upperBound:上半分の配列の上限位置
- マージ後, workSpace からものと配列にデータ
- ●使用する workSpace の添字の範囲に注意

15 16

```
マージソートの実装(5) 整列の呼び出し

public static void mergeSort(int[] dataArray) {

// 整列対象と同じ大きさの作業用配列を確保
int[] workSpace = new int[dataArray.length];

// 配列全体を対象として再帰処理に入る
recMergeSort(dataArray, workSpace, 0, dataArray.length - 1);
}

作業用配列 (workSpace) の領域を確保し、引数として渡していく
```

マージソートの性質(1)

- 分割の手間
 - 配列を利用する場合(pは部分列長): O(1)×n/p
 - 連結リストを利用する場合: O(n)
 - 要素数を数えながら分割場所を探すため
- **④** マージの手間: O(n log n)
 - **o** n個の要素のマージに O(n)
 - マージ回数は log, n
- **●** マージソートの計算量: O(n log n)
- 分割は要素の値に非依存なので計算量は常に同じ
 - マージソートのメリット

マージソートの性質(2)

- ●配列の整列にベストなのはクイックソート
- 定数項部分がクイックソートのほうがよい
- マージソートは配列のコピーが手間
- ●整列に必要な作業領域が O(n) なのも不利な点
 - **●** クイックソートは O(log n)
- ●マージの際に位置関係を保てば安定な整列が可能

19

20

連結リストによるマージ

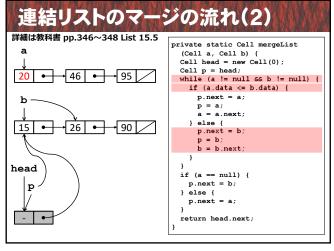
- 実はマージソートは配列が不得意
 - 作業用配列へのコピーが高コスト
 - 作業用配列として元の配列と同容量のメモリが必要
- 連結リストを使うと上記の問題が解決可能
 - リンクの書き換えで要素の移動が可能
 - リンクの容量は O(n) だが、本来必要なもの
 - マージ操作は列へのシーケンシャルアクセスで,単方向の 連結リストで実現可能

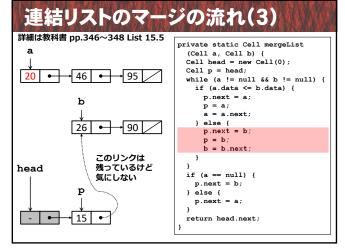
連結リストのマージの流れ(1) 詳細は教科書 pp.346~348 List 15.5 private static Cell mergeList (Cell a. Cell b) { Cell head = new Cell(0); Cell p = head; 20 • 46 • 95 while (a != null && b != null) { if (a.data <= b.data) {
 p.next = a; b p = a; a = a.next; } else { 15 • 26 • 90 p.next = b; p = b; b = b.next; head if (a == null) {
 p.next = b; р else {
p.next = a;

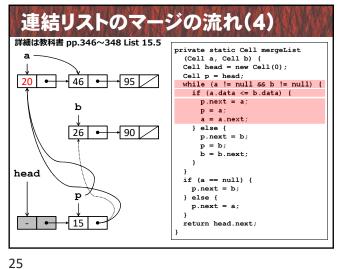
return head.next;

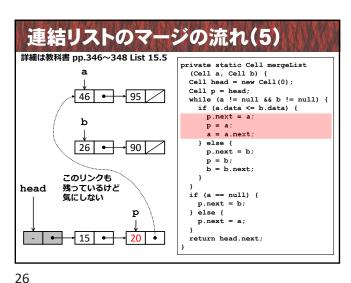
21

22







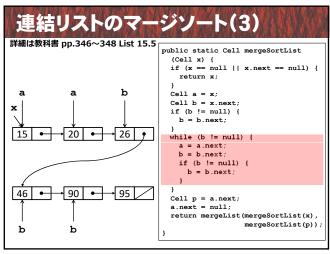


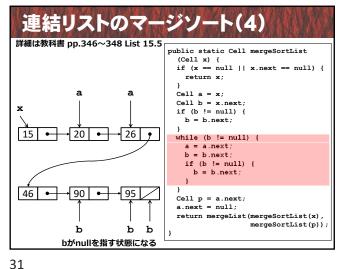
```
連結リストのマージの流れ(6)
詳細は教科書 pp.346~348 List 15.5
                                     private static Cell mergeList
                                       (Cell a. Cell b) {
                                       Cell head = new Cell(0);
                                       Cell p = head;
                        95
                                       ceif p = nead;
while (a != null && b != null) {
                                         if (a.data <= b.data) {
   p.next = a;</pre>
                          h
                                           p = a;
a = a.next;
     head.nextを返す
                       null
                                          else {
p.next = b;
head
                                           p = b;
b = b.next;
            15 ●
                        ÷ 20 🦻
                                       if (a == null) {
                                       p.next = b;
} else {
  p.next = a;
                         р
                                       return head.next;
26 • 46 •
                       → 90
```

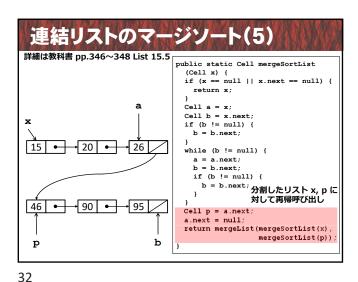
```
連結リストのマージソート(1)
詳細は教科書 pp.346~348 List 15.5
                                   public static Cell mergeSortList
                                     if (x == null || x.next == null) {
  return x;
 連結リストの要素が 0 か 1 つなら
そのまま戻る(再帰の終了条件)
                                     Cell a = x;
Cell b = x.next;
if (b != null) {
                                       b = b.next;
15 • 20 • 26 9
                                     while (b != null) {
                                       a = a.next;
b = b.next;
if (b != null) {
                                         b = b.next;
46 • 90 • 95
                                     Cell p = a.next;
a.next = null;
                                     return mergeList(mergeSortList(x),
                                                       mergeSortList(p))
```

27 28

```
連結リストのマージソート(2)
詳細は教科書 pp.346~348 List 15.5
                                    public static Cell mergeSortList
                                      (Cell x) {
if (x == null || x.next == null) {
                                       return x;
                                      Cell a = x;
  а
              b
                          b
                                      Cell b = x.next;
if (b != null) {
х
                                       b = b.next;
            20
                       → 26 👂
15 -
                  •
                                      while (b != null) {
                                       a = a.next;
b = b.next;
                                        if (b != null) {
  b = b.next;
46 • 90 • 95
                                      cell p = a.next;
a.next = null;
return mergeList(mergeSortList(x),
                                                       mergeSortList(p));
```







外部整列

- 外部記憶上のデータを整列すること
- 注意事項
 - アクセスに時間がかかる
 - 入出力はバイト単位ではなくブロック単位
- 入出力の回数を減らすのがコツ
- アクセス方式の違い
 - ランダムアクセス(ディスク)
 - シーケンシャルアクセス(テープ)

マージソートを利用した外部整列

- 基本的な考え方
- データを主記憶に入る分量だけ読み込む
- 動み込んだデータを内部整列してからファイルに書き出す
- **書き出した塊を連(run)と呼ぶ** マージアルゴリズムを使って連を整列された列にまとめる
- 詳細は教科書 pp.351~355 を読むこと

33 34

まとめ

- マージソートの原理
- 配列によるマージソート
- 連結リストによるマージソート
- 外部整列(概要)

参考文献

36

- 定本 Javaプログラマのための アルゴリズムとデータ構造(近藤嘉雪)
- 新・明解 Javaで学ぶ アルゴリズムとデータ構造(柴田望洋)
- 岩波講座ソフトウェア科学 3 アルゴリズムとデータ構造(石畑清)
- ◆ Javaで学ぶアルゴリズムとデータ構造 Robert Lafore (著)・岩谷 宏 (翻訳)
- **Java アルゴリズム+データ構造完全制覇** オングス (著)・杉山 貴章・後藤 大地 (監修)